

活動テーマ

地域の人々とつくる『渋川ESDミュージアム』

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、地域の「ふれあいまつり」の日に合わせて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、地域の人々に発信している。

1 本校の環境教育について

(1) 地域協働で進める環境教育

本校の環境教育の研究主題は、「渋川を愛し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」である。環境教育で、子どもたちは地域の身近な自然やくらし、文化について学んでいる。この学びを通して、人と人とのつながりを創出し、ふるさとへの愛着や誇りを深めることをねらいとしてきた。本校の環境教育のプログラムは、本校教員だけではなく、保護者、地域、行政、研究機関、企業が参加した環境教育の支援委員会を組織し、検討を重ねながら作成・実践してきたものである。

(2) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

(3) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなく、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたりして、行動に移したりする態度の育成を目指している。

2 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

5年生は、びわ湖フローティングスクールを核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き「びわ湖環境学習」を実施し、森・川・田・湖のつながりについて考えた。琵琶湖の学習では、シジミ漁やえり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理を作って味わった。琵琶湖の水質と関係が深い森や田の環境については、農家や森林に詳しい専門家を学校に

招いたり、離れたところからテレビ会議システムを使って遠隔授業を行ったりしながら、人とのつながりを大切にした学習活動を展開した。さらに学習の成果を地域の人々に発信するために、「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」を開館したり、地域の人々と協働で栽培したお米の試食交流会を開催したりした。

【宮崎県との遠隔授業】

6年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」「果樹」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。学習のまとめでは、滋賀の農産物やそれらを使った郷土料理の魅力を紹介する「滋賀の郷土料理博物館」を開館させた。学校内だけでは見ていただける方が限定されるため、県庁や市役所、地元ショッピングモールなどで巡回展を実施して、数千人に成果を発表することができた。



【滋賀の郷土料理博物館を開催する】

3 実施に当たっての工夫

ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。校外学習などで子どもたちが学校から出かけていく機会は限られるため、現地の様子がライブで伝えられる遠隔授業を活用してきた。5年生では、琵琶湖船上から漁業の様子を伝えたり、森林の中から森のはたらきを解説したりした。6年生では、農園から生中継して、野菜や米やお茶の栽培方法の解説を聞きながら学習した。また、事前に食材を入手し

ておいて、漁師や農家の方々と生中継で結び、現地からの指導を受けながら学校の家庭科室で調理実習を行うこともあった。さらに県外の農業遺産認定地域である宮崎県・徳島県・静岡県・埼玉県とも交流することができた。人との出会いのツールとしてテレビ会議システムを積極的に活用することができた。



【宮崎県との遠隔授業】

4 成果

本報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子どもたちの豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかりと意識して取り組みたい。

学校名	草津市立渋川学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp